

平成22年度超深地層研究所安全確認委員会 議事録概要

1. 日時 平成22年12月17日(金) 14:00~14:45
2. 場所 瑞浪市産業振興センター 3F 大ホール「瑞雲の間」
3. 出席者 水野 光二委員長(瑞浪市長)
秦 康之岐阜県環境生活部次長(坂 正光副委員長岐阜県環境生活部長の代理)
竹内 正俊副委員長(土岐市副市長)
石井 紘委員(東濃地震科学研究所所長)
伊藤 征史委員(山野内区代表)
市川 晴宣委員(瑞浪市連合自治会会長)
有賀 佳代委員(瑞浪市食生活改善推進協議会会長)
三輪 洋二委員(土岐市連合自治会会長)
三輪 やよい委員(前土岐市女性連合会会長)
永井 新介委員(河合区代表)
日比野 昭委員(瑞浪市議会)
松浦 勝男委員(土岐市議会)
藤井 清敏委員(岐阜県東濃振興局長)
永井 隆委員(土岐市総務部長)
水野 正委員(瑞浪市総務部長) [名簿順、敬称略]
*加納 英之委員(戸狩区代表)、成瀬 浩二委員(月吉区代表)は欠席
4. 事務局 高橋 明範(瑞浪市総務部次長兼企画政策課長)
梅村 修司(瑞浪市総務部企画政策課)
加納 宏樹(瑞浪市総務部企画政策課)
5. オブザーバー 三原 守弘資源エネルギー庁放射性廃棄物等対策室課長補佐(苗村公嗣資源エネルギー庁放射性廃棄物等対策室長の代理)
6. 報道関係者 中日新聞、岐阜新聞、読売新聞
7. 傍聴者 3名
8. その他出席者 自治体関係者5名、原子力機構(吉田所長、杉原副所長ほか1名)

9. 委員会議事内容

水野委員長

【開会あいさつ】

現在、日本における電力量の23%を原子力が担っており、原子力発電の果たす役割が大きくなってきている。

しかしながら、原子力発電によって発生する高レベル放射性廃棄物は、扱いが非常に困難である。その中で日本原子力機構の東濃地科学センターで実施している研究開発は重要な使命を担っている。今後も安全第一で研究を進めていただきたい。瑞浪市は、役割分担として研究所を受け入れたわけで、処分場を受け入れることはない。

吉田所長

【あいさつ】

日ごろより、原子力機構東濃地科学センターの研究及び事業運営に関してご理解、ご協力いただき、御礼申し上げるとともに、当委員会において説明の機会を与えていただき、感謝申し上げます。

今年度は研究坑道を利用した研究に一部着手し、着実に研究は進んでいるが、今後とも安全を最優先として、透明性を持って研究開発を進めていきたい。

なお、今朝の新聞等で、当機構のホームページにおける地層処分研究開発部門長のあいさつに誤解を招く表現があった旨が報道されたが、茨城の東海研究開発センターで行われている放射性廃棄物を用いた研究を東濃と幌延で実施していると取られかねない表現があり、今後は正確な情報発信に努めていきたい。

【原子力機構東濃地科学センターの事業説明】

杉原副所長

別添資料「超深地層研究所の現状」に基づき、研究所の概要、掘削の状況、安全・環境管理、排水・掘削土・空間放射線線量などに関する測定結果や参考値を超えた掘削土の処理方法、排水に含まれる塩化物イオンの管理状況についての説明が行われた。

【質疑応答】

永井(新)委員

ホームページについて、一定期間、どうしてあのような表現で掲載されたのか、内部のチェック体制はどうなっているのか、もう少し丁寧な説明が必要ではないか。

永井(新)委員

国が地層処分を行うにあたり、原子力機構が役割分担されている部分が、研究所が建設された当初と今では変わってきているのではないか。その辺りの説明が全くなく、毎年同じような事業説明、報告に終始している。

先ほども委員長がおっしゃったように、地元は研究施設で、NUMOとの関連を切り離した形で処分場にはならないということで受け入れているはずだが、どうもそうばかりではないという情報を聞くが、一度も説明を受けたことがない。

杉原副所長 NUMO設立以来、原子力機構の役割は、その関係も含めて大きくは変わっていない。変わってきているというご指摘の具体的な内容は。

永井(新)委員 2005年の調整会議で進捗状況を調整しながら進めるとし、その後の全体計画で国の処分事業の進め方をプランニングした報告書が出た。その中で処分事業と機構の研究が併記され、関連付けられており、処分場の選定と地層研究が密接に関連付けられている。NUMOが進める処分事業について、原子力機構の研究成果を適切に反映させるということは、処分事業の一端を担っていると思われる。以前はそうではなく、研究と処分事業は別物だったが、これは瑞浪での研究の位置付けが変わってきているということではないのか。

杉原副所長 現在も研究の位置付けが変わったという認識はない。以前より安全規制を含めた処分計画に適切に研究成果を反映できるように効率的に進めてきている。

永井(新)委員 「効率よく」というのは「処分事業を効率よく進める」ということで、「機構が実施する研究を効率よく進めること」ではないと考えられる。現在、5年ごとで区切って研究を進めているのは、そういう背景があつてのことではないのか。

杉原副所長 国が行う地層処分に関わる研究開発を合理的、効率的に進めるということである。

永井(新)委員 研究を効率的に進める目的は、処分場をつくった時にそれとうまくリンクさせるために調整をしているのでないか。

杉原副所長 最初に申し上げたように地層処分の推進と安全規制を着実に進めるための基盤的な研究という位置づけである。

永井(新)委員 いずれにしても、純粹に研究のための研究施設ではなく、実際に処分にかかわるところに入っているんだということ強く言いたい。だから、研究の目的があつて、その中で研究所はこういう役割を果たしているという説明がないと理解できない。

杉原副所長 当初から研究の内容も役割も大きくは変わっていない。

- 永井(新)委員 やっていることは変わっていないのかもしれないけれど、やり方、利用方法、結果をどう使うかは変わってきているのではないか。
- 杉原副所長 それも変わっていない。国費を使って研究開発を行っている以上、その反映先がないという研究はない。
- 永井(新)委員 であれば、逆に研究期間はどうか。いつも5年ごとに見直すからその先のことは分からないといわれるが、元々の20年という研究期間がどうしてそのように変わったのか。
- 杉原副所長 独立行政法人に統合再編されたことにより、行政組織の中で5年ごとに中期計画に沿って事業を行うことになっているためである。
- 永井(新)委員 平成30年以降の研究の第2段階においては、NUMOのニーズによって内容を決定していくというような書き方がされてあった資料を見たことがあるがその辺りはどうか。
- 杉原副所長 われわれの研究開発はNUMOによる事業推進と国の行う安全規制にかかわる技術基盤を提供するという。ニーズは双方から出てくるのでそれに応じた研究を行うことが機構の役割である。
- 永井(新)委員 元々は地層処分ということすら研究テーマには上がっていなかったと思うが、今、NUMOのニーズによって研究を進めていくのは当たり前だといわれるというのは大きく変わってきていると思えて仕方がない。それを何も変わっていないといわれるのは不自然だし、不親切だし、変わってきていることを理解できていないとすれば、地元は怖い。
- 事務局 今の委員の一連の発言は、国の処分事業における機構の研究のあり方というところで、非常に重要だが、この会議は、冒頭、委員長が申し上げたとおり、安全を確認するというものであり、その議論は、別途、機構による事業説明の場でもお願いしたい。
- 永井(新)委員 地元でも事業説明を受けているが、今、申し上げた話を一度も聞いたことがない。委員長が「役割分担」とおっしゃったが、そういう以上は目的があつての「役割分担」

で、その目的が変わってしまえば、この委員会の性格も変わってしまう。

伊藤委員 永井委員の言われることはもっともだと思う。機構の説明だけでは専門的な分野でついていけない。事業説明だけであれば安全確認委員会はいらない。

事務局 貴重なご意見をいただいた。この委員会は四者協定に基づいて開かれている委員会なので、関係機関と委員会のあり方を検討させていただいて、次回の委員会には意見を反映させた形で開催したい。

委員長 その方向で検討したい。

【その他】

永井(新)委員 東濃鉱山の閉山措置について、埋め戻し等、どのようなスケジュールで進めていくか地元へ提出してほしいと依頼していたが、どうか。

杉原副所長 予定としては、今年度から閉山措置に着手して、平成27年度ごろまでに完了する。ただし、措置の状況や予算により変更はありうる。そのあと平成31年度くらいまで安全確認のモニタリングを実施する。

永井(新)委員 それと関連があるかどうか分からないが、現在、日本無重量総合研究所の建屋を取り壊して更地になっているが、これと閉山措置との関係は。

杉原副所長 当鉱山の閉山に伴い、研究所の研究スケジュールも鑑みて廃止をされるということ。

永井(新)委員 敷地内の第二立坑はどのような措置をとるのか。

杉原副所長 最終的に埋め戻す予定である。

永井(新)議員 工事車両の往来も多くなるだろうし、鉱石等の搬出の問題もある。しかるべき時期に分かりやすい形で地元へ説明してほしい。

委員長 これにて、平成22年度超深地層研究所安全確認委員会を終了する。

三原課長補佐 【あいさつ】

平成23年2月2日
瑞浪市総務部企画政策課

当初は室長の苗村が出席予定だったが、所用により代理で出席させていただいた。超深地層研究所については、瑞浪市をはじめとする地域の方々にご理解いただき、感謝している。

引き続き、ご理解、ご協力をお願いしたい。